

平成30年度全国学力・学習状況調査 分析

1 成果及び課題

(1)【国語】

<成果>

○昨年度と比較すると、「知識」「書くこと」が伸びていることから、漢字の学習や作文を書く経験を日頃の授業で実践されてきたことが分かる。また、記述式の問いに対しての正答率が高いので、自分の考えをまとめ表現することを多く経験してきたことが感じられる。

<課題>

○千葉県や昨年度の比較すると「書くこと」は伸びているが、国語全体の正答率から見ると、3割程度と低い。「話すこと」の項目が7割なので、5割に近づけるための手立てを考えていかなければならない。

(2)【数学】

<成果>

○千葉県や昨年度の比較すると、全ての項目で、A型問題よりB型問題の正答率が高く、活用問題や記述式の問題での伸びが目立つ。定期テストで活用問題を取り入れたり、日頃のまとめを自らの言葉で表現したりした経験が多かったことが感じられる。領域では関数への知識が特に高く、数を視覚化して考える力が身につけてきたことが分かる。

<課題>

○数学全体の正答率から見ると、まだ活用力や記述で解答する問題の正答率は3割程度である。5割に近づけるために、解答に至るまでの思考ツールを大事にした学習を重点的に取り入れていく必要がある。

2 改善目標及び具体的な手立て

(1)【改善目標】

- ①国語：「書く力」を伸ばす
- ②数学：活用力を伸ばす
- ③学力向上のための指導方法の見直し
- ④望ましい学習習慣の確立

(2)【具体的な手立て】

- ①条件作文を取り入れた授業展開（月に1回程度）
- ②既習事項を用いて、活用問題を取り入れた授業を展開する。また、学習内容をおさえた問題作りをグループで解き合う。
- ③仮説を立て、全職員で共通したねらいのもと校内研修会や授業相互参観を各学期に計画を入れていく。教科部会も学期始めと学期末に実施する。
 - ④到達度テストに向けた学習計画表の立て方を、全校または学年で統一した取り組みを実施する。他学年とのつながりも活用しながら、なんのために学習するのか目的意識を深めた上で、計画作りについて考えていく。学習委員会を中心とした、生徒会活動を取り入れていく。